

地域女性ネット高岡 福岡地区婦人会
高岡市福岡町
調査担当者 井村 博子 (副会長・福岡地区婦人会会長) ほかメンバー16人
平成22年9月11日、ふれあい交流センターにて聴取



【略歴等】 市町村合併に伴い、旧高岡市の地域女性ネット高岡と旧福岡町の福岡町連合婦人会が合併
【代表者】 辻 やす子 (会長)
【会 員】 高岡市全体 13,000 人、福岡町地域 300 人
【活動理念・目的】 女性の啓発、地位の向上を図ると共に、男女共同参画社会の実現に向けて活動を進めながら地域社会の進展に貢献することを目的とする

【まちづくり活動の現状】
○ 福岡町6地区で独自の取り組みと福岡町全体での取り組みと本部（高岡市全体）での取り組みがある。
○ 福岡町6地区のそれぞれで、資源回収、ごみの分別、リサイクル指導などの取り組みを行っている。
○ 福岡町全体の取り組みでは、福岡駅前公園の花壇づくりで美化活動。イベント、祭りへの参加、協力をして賑わいづくりを創出。つくりもんまつりでは、15年連続で作品を出展し、メンバーが企画を練り、農協の倉庫を利用して作品を制作。収穫を祝い、五穀豊穰に感謝する伝統のつくりもんまつりに参加し、神様への捧げ物ができたことの喜びは最高。また同時に手作りケーキでカフェテラス「花時計」を開店。売り上げの一部を福岡町の介護施設に寄附している。
○ アートMでは、会員及び有志がボランティアで自宅を民泊として提供。全国各地の大学から参加している学生300名にランチタイムにカレーライスを提供。
○ 地域公民館活動と協力して、三世代交流行事や季節の行事を支援。今年は、Uホールで自主サマーコンサートを実施し、美しく清らかな音楽で涼しげな癒しのひとときを提供。来場者は80～100人であった。

【エコ活動の現状】
○ 資源回収は年2回実施。資源回収の取り組みは50年近い実績があり。
○ 婦人会を通じたエコの啓発普及活動は、特に婦人会リーダーが中心となり、家庭ごみの分別、家庭内の省エネ等に取り組む。婦人会活動は、ごみ問題、省エネ等の関係から生活ノウハウの視点からのエコ活動の取組期間が長く実績が豊富。家庭や地域社会では身近なエコのリーダー、牽引役として機能。
○ メンバーの家庭での取り組みについては、①ごみの分別、②エコ家電への買い替え(テレビ、LED等)、③エコ住宅へのリフォーム(オール電化住宅)、④ガーデニング(窓部へのグリーンカーテン、朝顔等の蔓草植物を使用)、⑤エコバッグの使用、⑥堆肥化等。
○ メンバーのなかで、まちづくり研修としてドイツ視察の参加者あり。ドイツでは、まちづくりのほか、ドイツ型の環境対策等も視察。

【まちづくり活動・エコ活動に関する課題等】
○ 資源回収活動、ごみ分別回収については、リサイクル、リユースの可視化が必要。住民が取り組んだ活動が無駄にならないための取り組みが必要。
○ 家庭内でのエコ活動のノウハウ等の共有化。家庭緑化等の植栽方法、家族参加型のごみ分別・ごみの出し方法、エコ家電の効果的な活用、買い替え方法・時期等の情報共有。
○ エコについての学習機会の拡充。エコ施設視察、エコの勉強会等。
○ 男性や子ども等、エコ意識の涵養や具体的な活動への誘導。(地域や家庭により、男性や子どもの理解や参加に差異あり)。子育てや介護等のための、エコ活動が十分に行えない家庭あり。

【今後の高岡市並びに福岡町地域のまちづくり】
○ 市民の生活視点にたつて福岡駅前活用法。駅前広場の確保とまちづくり活動への開放など。つくりもんまつりの作品制作と展示場所の確保。

【ヒアリング要旨】 地域女性ネット高岡のメンバーに聞く

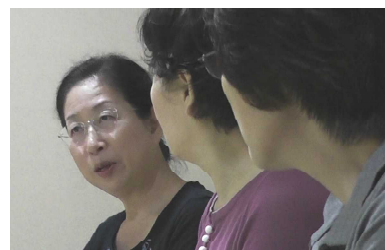
分かりやすいエコを！

エコ活動を行っていて疑問に思うことが多くあります。地域の住民が分別した資源ごみは、本当に資源として活用されているのでしょうか？苦勞して分別した資源ごみを回収業者が混合して収集しているところをみたことがあります。正しい回収方法、回収した資源ごみをリサイクルした製品など、私たちが疑問に思うことを分かりやすく目に見える形で示していただくことが重要です。



誰でも取り組むことができるエコ活動を普及したら！

自宅で窓に植栽をするグリーンカーテンに取り組んでいます。効果は大きく、今年の猛暑でもエアコンの使用を例年以下に抑えることができました。省エネ効果も体感できました。我が家では、これまでゴーヤを試したことがありましたが、実が落下して路面が汚れたなどの課題がありました。今ではアサガオを使っていますが、花が開くなど見た目も綺麗です。グリーンカーテンに適した植物があるように思います。取り組み方法や省エネ効果をロコミで広めていくことも必要ではないでしょうか。



家族の全員参加でエコの取り組みを！

夫や子どもなど家族全員にエコに取り組んでもらうことが必要です。家族がごみの分別に協力しない場合は、主婦がごみ出しの際に確認作業をしている家庭もあります。ごみの分別やごみ出しの役割分担など、各家庭のエコのアイディアを活用することで、多くの家庭で男性や子どももエコに参加することが可能ではないでしょうか。



新しいエコの考え方や方法を知りたい！

フードマイレージなどの新しいエコの考え方があります。エコ家電の使い方なども、経験だけでなく効果的な使用方法があると思います。また、ペットボトルのキャップ回収などは、民間のNPOなどの呼びかけで協力している方が多くいますが、個人や世帯単位で取り組むことが非効率なものもあります。社会全体でどのようなエコの取り組みが有効かを知りたいと思います。

エコ家電や住宅リフォームに取り組んでいます！

エコポイント制度などを活用して、環境性能の高いエアコンやデジタルテレビの買い換えなどは進んでいます。LED電灯の使用なども一般的になってきました。また、オール電化への切り替えなど、住宅性能の高い住宅リフォームに取り組む、省エネ効果がみられた家庭もありました。しかし、私たちに、壊れていない家電製品を買い換えることは抵抗感があります。古くなったり、壊れたりなどのタイミングでのエコ家電の買い換えが多いのではないのでしょうか。また、せっかく購入したLED電灯がすぐに故障したりなど、人気のエコ商品にも疑問があります。メーカーの広告をうのみにするのではなく、購入者の意見なども参考にしたいです。



エコについての学びの場を！

研修ツアーに参加してドイツの市民活動やエコの取り組みを視察してきました。取り組みの考え方や方法が参考になりました。海外までいかなくとも、市内のリサイクル施設など、身近な地域のエコ施設などを訪問して、エコについて市民が学ぶことも必要ではないでしょうか。婦人会メンバーをはじめ参加したい方はたくさんいると思います。



市民の生活に根ざしたまちづくりを！

福岡駅前には観光客の方には殺風景にみえるかもしれませんが、生活者の私たちの目から見ると、獅子舞いのイベントのように、駅前の広場を活用した活動があり、駅前の空間が上手に活用されています。観光客を増やす目的だけで駅前の開発を進めるのではなく、地域住民の生活や文化に根ざした視点からのまちづくりも重要だと考えます。



※上記のご発言は、個人情報に配慮して、複数の方のご意見を整理集約してとりまとめました。

越中福岡の菅笠製作技術保存会
高岡市福岡町
調査担当者 木村 昭二（会長）
平成 22 年 9 月 11 日、木村保存会長の菅笠工房にて聴取



【略歴等】 「越中福岡の菅笠製作技術」の国の重要無形民俗文化財指定を記念して平成 20 年 10 月設立
【代表者】 木村 昭二（会長）
【会員】 約 230 名
【活動理念・目的】 越中福岡の菅笠製作技術の伝承の方策などの検討を目的とする。

【まちづくり活動の現状】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 菅笠製作技術の保存と継承。 ○ 保存会日より作成や展示会出展による P R 活動。 ○ 菅笠技能者による実演講習 ○ 地域の伝統産業・歴史・文化の伝承・啓発活動（生涯学習、学校教育等） ○ 講演会の講師。 ○ 菅笠技術の普及に向けた、テレビ、マスコミ等の番組製作、取材等への協力 ○ 菅笠産地交流
--

【エコ活動の現状】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 地元産の菅など、天然素材を活用した菅笠製作。 ○ 地産地消型の伝統産業の歴史・技術に係る普及啓発
--

【まちづくり活動・エコ活動に関する課題等】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 近年は生産者と技術者の高齢化が進み、後継者不足が深刻化 ○ 活動資金不足
--

【今後の高岡市並びに福岡町地域のまちづくり】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 伝統産業を活かしたまちづくりの中心となる今後の菅笠、技術伝承の方策については、発展までは望まず、まずは現状維持に向けて取り組みを行う。 ○ 伝統産業を伝承継承したまちづくりを行うには、利益優先ではない気構えが必要

【ヒアリング要旨】 木村会長に聞く

福岡の菅笠産業の現状は？

今でも新潟、山形などの地域では、雪かきのときに菅笠が実用品として使用されています。しかし、福岡では菅笠が実用品として使用されることはほとんどなくなりました。生活様式が変化したなかで、今後の菅笠の需要が大きく伸びることはないと思います。しかし、福岡で製作した菅笠が、テレビの時代劇や歌舞伎の小道具などで使用されているように、菅笠の需要が全くなくなるということではありません。400年の歴史をもつ福岡の菅笠は、これからも社会から必要とされると思います。



今後の福岡の菅笠づくりは？

福岡の菅笠がこれからも生産を続けていくためには技術の伝承など、後継者の育成が不可欠です。菅笠の生産・販売には、竹を使った骨組みづくりである“①骨さし”、菅を使った“②笠縫い”、そして完成した菅笠を流通販売させる“③菅笠問屋”と、さまざまな人が生産に関わってきました。今は、こうした関係者が極めて少なくなっています。需要の落ち込みが大きな原因です。しかし、400年をかけて培ってきた伝統産業、伝統工芸の技術を次世代に継承していくことは重要です。保存会ができたのもこの点にあります。私は“骨さし”を57年間やっていますが、先人の技術に新たに自分なりの技術を加えて、今でも技術の向上を考えています。菅笠づくりは完成された技術ではなく、今でも進化を続けているわけです。こうした菅笠の技術を習得するためには長い年月がかかります。大工さんなど他業種の方が副業にされたいと言って学びにくることもありました。技術習得の難しさや採算の問題などもあって、これまで長続きする人がいないのが現状です。

福岡町の菅笠がエコの観点から優れている点は？

最近の菅笠では、骨ぐみの材料としてプラスチックを用いたものがあります。こうしたプラスチック菅笠と比べると、菅や竹などの天然素材を使用することで、環境に優しい製品になっていると思います。また、通気性もよく、強度もプラスチックに負けなほど強く、製品の性能として優れている点も多くあります。しかし、こうした天然素材を使った菅笠はすべての工程が手作りになります。テレビの時代劇をみてもわかるように、一口に菅笠といってもさまざまな大きさや形があります。私は、依頼に応じてたくさんの種類の菅笠を作っています。今も戦国武将の佐々成政が使用した菅笠を再現してほしいという依頼が来ています。このような少量多品目型の菅笠の生産方法では、大量生産とは異なり、一点一点の製作に創意工夫と時間が必要となります。このためかつてのように安い価格でつくれる場合もあります。こうした生産方法や需要と供給の点についても多くの方に知っていただきたいと思っています。

活動の成果を実感された瞬間といえば？

学校の講演会で菅笠のお話をしたことがあります。講演を聞いた子どもたちが感想文を書いてくれましたが、その中に、「菅笠に興味をもった」「菅笠の職人になりたい」という内容のものがありました。一つ一つの活動が、次世代の後継者の育成に繋がっていることを実感しています。アジアなどの諸外国では、日本の菅笠と似たような編笠を今でも使っています。しかし、構造や製作方法が、日本のものとは異なります。また、大河ドラマの「龍馬伝」をみても、登場人物の岩崎弥太郎が、家が貧しいためポロポロの菅笠を大切にかぶっています。生活必需品であった菅笠が大事に扱われていた時代もあったわけです。テレビなど、身近な生活のなかから、菅笠に関心をもっていただいたり、福岡の菅笠の特徴などを知ってもらうことも可能だと思っています。

今後の目標について？

私は今年83歳になります。現在の目標は、健康を維持して100歳まで菅笠づくりを続けることです。笠縫い技術をもつ方で80代の方もいますので、お互いに長生きをして、100歳を超えた職人だけで作った菅笠というのはどうでしょうか。マスコミなどに取り上げられて、福岡の菅笠の宣伝になるかもしれません。私を含め、関係者も努力を続けて、福岡の菅笠を一層ブランド化し、価値を高めていくことも大切です。

高岡市食生活改善推進協議会
高岡市福岡町
調査担当者 伊藤美和子（副会長）（福岡、山王、大滝、西五位・五位山、赤丸の5地区の代表）
平成22年9月11日、伊藤副会長宅にて聴取



【略歴等】 合併に伴い2市町の食生活改善推進協議会が再編
【代表者】 会長 横川 照子
【会 員】 747人（福岡、山王、大滝、西五位、五位山、赤丸地区 152人）
【活動理念・目的】 市民の食生活を改善し、健康づくりの推進を行うことを目的に活動

【まちづくり活動の現状】
○ 食生活改善運動（栄養指導、メタボ対策等）
○ 一人暮らし高齢者を対象とした交流事業（調理実習、レクリエーション等）

【エコ活動の現状】
○ 過去3年間、エコアンケート調査を実施。調査結果をもとに、食生活改善指導として、「洗剤の節約法」、「アクリルたわしの使用法」等の情報を家庭や地域社会等に提供。
○ 地産地消型事業として、協議会も参加した鯉料理研究会を設置し、地元食材である食用鯉を活用した「鯉料理レシピ」を考案。鯉チャーハンをはじめ、和洋中のオリジナルレシピを印刷し、町内外の養殖業・加工業や市民の皆様に配布。

【まちづくり活動・エコ活動に関する課題等】
○ エコアンケート調査結果のまちづくり等への活用
○ 考案した鯉レシピの具体化、実践化。
○ エコをテーマとした食生活改善事業の推進

【今後の高岡市並びに福岡町地域のまちづくり】
○ 市内レストラン、食堂等における鯉料理のメニュー化。
○ 地産地消型のグルメメニューづくりにおける地域人材の活用（福岡町地域在住の全国料理コンクールの入選者等）

イ 農水系団体

いなば農業協同組合 福岡支店

〒939-0116 高岡市福岡町下藪 374 電話番号 0766-64-8600

調査対応担当者 坂田 敏明（副支店長）、品川 喜昭（営農経済課長）

平成 22 年 10 月 6 日、福岡支店会議室にて聴取



【略歴等】平成 6 年に 3 農協（小矢部市、福岡町、津沢）が合併

【代表者】岡田 繁正（代表理事組合長）

【組合員・会員・従業員等】組合員数 7,000 名、准組合員数 2,072 名 正職員 174 名、その他職員 65 名

【事業概要】総合農協

【主要商品・サービス等】営農生活指導、共済（保険）・金融、福祉、自動車関連、旅行、葬祭、農産物販売・購買事業など

【エコ関連事業】

○エコファーマーの育成

エコファーマーとは、平成 11 年 7 月に制定された「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律（持続農業法）」第 4 条に基づき、「持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画」を都道府県知事に提出して、当該導入計画が適当である旨の認定を受けた農業者のこと。

○循環型農業の実践

○カバープランツ

地被植物のことで、地表を覆う（カバーする）ように生育する植物の総称で、茎や枝を横に伸ばして地面や壁面などを低く薄く覆うため、土壌の乾燥や土の流出、雑草を防ぐ効果がある。

○農業用廃プラスチック類・廃農薬の排出削減及び回収拡大

○地産地消（地元スーパー、直売所、無人販売等）

○食育教育（小学 5 年生に対して、里芋やネギの植え付け指導、給食での米粉パン）

○体験交流事業（ふるさと体験ツアー）

【社会貢献活動】

○学校と連携した農作業体験として、福岡小学校 5 年生を対象に、里芋やネギの植え付けを指導し、除草などの圃場管理から収穫・包装作業を行う。実際にふくおか産業フェスティバルで販売の実施を行う取り組み。

○体験交流事業として、大阪などの消費者と田植え体験や稲刈り体験などを行う。

【エコ活動】

○地産地消の取り組み。農協直営の直売所のほか、農家が独自に取り組まれている直売所や、地元のスーパーが地産地消コーナーを設けている。

【今後の高岡市並びに福岡町地域のまちづくり】

○農業を活かした特産品開発（ブランド農産物、農産品加工等）や、J Aいなばの米は「メルヘン米」としてブランド化に取り組んでいる。

○福岡特産の菅の伝承について、栽培技術のマニュアルを作成し、栽培面積の拡大や既存の生産者の継続、新たな生産者の確保を図りたい。菅の伝承を通じて、地域活性化につなげていきたい。

○地域の活性化事業として、イベントでハトムギ茶を振る舞っている。

【ヒアリング要旨】 坂田副支店長、品川課長に聞く

現代の地域農業・農地が果たす役割について？

国土・自然環境の保全としては、洪水や土砂災害の防止、生物多様性の確保、地下水源の確保、緑地空間の提供、良好な景観の提供等が農業・農地の果たす役割としてありますが、その役割は多様化してきています。具体的な取り組みの1つとして、“エコファーマー”の育成があります。環境に配慮しつつ農地の生産力を維持・増進する農業を行います。JAいなば福岡町管内では現在11軒のエコファーマーが認定されています。福岡町地域の西五位地区では、個々の農家がエコファーマーとなるのではなく、集落全体がエコファーマーとしての取り組みを地域的に展開していて、これは全国的にもめずらしい取り組みだと思います。現在、8軒のエコファーマーが減農薬、減肥料に取り組んでいます。



エコの視点に立った農業とは？

最近では、田んぼや畑の農薬を減らすだけでなく、カバープランツによる環境にやさしい畦畔管理の実施を行っております。カバープランツとは、地被植物のことで、地表を覆う（カバーする）ように生育する植物の総称で、茎や枝を横に伸ばして地面や壁面などを低く薄く覆うため、土壌の乾燥や土の流出、雑草を防ぐ効果があります。傾斜地の緑化のほか、庭園・公園内の樹林下などの日陰地の緑化などに用いております。昔に比べると、田んぼにホタル等の虫がいなくなる傾向にあるため、農地を改善するという観点から、農薬の使用回数を減らすなど、生物が増えるような取り組みを進めております。その効果もあってか、ホタルが増えております。また、化学的な農薬をずっと使ってまいりましたが、微生物農薬という代替品があり、環境に負荷をかけないよう配慮しております。

エコ関連の取り組みについて？

環境に関して農家と農業がどうかかわりを持っていくのがとても重要になると思います。個々の農家が環境に対して学ぶことはとても難しいため、営農全般についてや新しい環境と共生できる農地のあり方などの課題を地域座談会で取り上げています。座談会は、年2回、8月と2月に行っております。また、トレーサビリティの取り組みも一般的になってきました。トレーサビリティとは、トレース（追跡する）とアビリティ（可能なこと）を合わせた造語で、製品の生産・流通履歴を明確にすることで、その製品の安全性の証明や、より正確な在庫管理を行なうことです。農協においては、農薬使用成分削減の取り組みや、米生産工程の管理記録と、栽培記録の開示による消費地への安心を提供しております。普及率は100%です。

エコに関連した地域活性化の取り組みは？

地産地消の取り組みがあげられます。農協直営の直売所のほか、農家が独自に取り組まれている直売所や、地元のスーパーが地産地消コーナーを設けております。地産地消の取り組みは、まだまだ増やしていくことができるのではないのでしょうか。JAいなば管内では、小矢部については充実しておりますが、福岡では常設の場所がなく、個々での取り組みが多くなっています。駅前開発で支店が移動する計画があり、移動した際に詳しくは決まっていますが、地産地消の直売所を設ける予定です。また、学校給食でも地元で取れた食材を出しております。また、地域を豊かにする点では次世代の育成も重要だと考えています。地域の子も達が食や農業について理解できるようにしていくため、学校と連携した農作業体験として、福岡小学校5年生を対象に、里芋やネギの植え付けを指導し、除草などの圃場管理から収穫・包装作業を行い、実際にふくおか産業フェスティバルで販売を行う取り組みを行っております。また、親子を対象とした、米粉パンづくりなどの学習会を開催しております。また、体験交流事業として、大阪などの消費者と田植え体験や稲刈り体験などの取り組みを小矢部中心で行っております。福岡では検討中でございます。

福岡のまちづくりについて？

農業を活かした特産品開発（ブランド農産物、農産品加工等）があります。JAいなばの米は「メルヘン米」としてブランド化に取り組んでおりますが、新たな作物として、ハトムギの生産振興に取り組んでおります。福岡町地域のブランド農産物を生産していくことも可能だと思います。また、福岡の伝統農業・工芸である菅の生産については、機械化できない作物ということもあり、面積が減少傾向にあります。昔は冬の間は菅笠を作っていたものでした。しかし、こうした貴重な独自の伝統産業が、現在、大きく衰退し、消滅の危機にあります。JAでは、昭和40年に菅マニュアルを作りましたが、最近の実情にあったものを新たに作成したいと考えております。菅田の栽培については、現在の面積を減らさずに維持していきたいと考えます。菅の伝承を通じて、地域活性化につなげられたらと思います。

富山県西部森林組合 高岡支所

〒939-0144 高岡市福岡町上向田 117 番地 電話番号 0766-64-6025

調査対応担当者 本多 伸一（高岡支所長）

平成 22 年 9 月 9 日、組合高岡支所会議室にて聴取



【略歴等】平成 20 年 10 月 1 日、砺波、利賀村、五箇山、高岡、氷見の富山県西部の 5 森林組合が合併し、「富山県西部森林組合」が発足

【代表者】桃野忠義（代表理事組合長）

【組合員・会員・従業員等】組合員 13,326 名、職員 43 名（高岡支所 7 名）

【事業概要】地域林業の担い手として山を育てつつ、森林資源を活かし、魅力ある山づくりに取り組む

【主要商品・サービス等】

【エコ関連事業】

- 衰退する地域林業の再生のため、放置森林や要間伐森林などの整備、台風などによる被害森林の整理を実施。
- 近年は広葉樹林や複層林など多様な森林造成を推進。
- 高岡支所は業務課、管理課の二課制を配し、業務課では森林測量 G P I 管理システムを導入し、境界管理や地積調査など事業の合理化、効率化を図り、森林技術はもとより専門知識などを備えた人材を育成。管理課では地域の組合員組織の強化のため森林振興推進員の委嘱、森林保険の加入促進、林業資材の供給等を実施。
- 森林作業班体制として、森林整備に熟知した人材を配備し、あらゆる森林作業を実行できる人材の育成、また高性能機械作業チームでは高度な技術力と高い生産性を目指し養成。

【社会貢献活動】

- 散居景観（屋敷林）業務として、地域づくり協定を結んだ地区（自治会など）を対象に屋敷林の枝打作業等を実施。
- 支所内の作業所を活用した木工品加工等の体験機会の提供。

【エコ活動】

- 砺波市に自然と仲良くなれる、くつろぎの空間「もりもりハウス」を経営。地元の山菜や木工品などナチュラルでオリジナリティーあふれる商品の展示、販売コーナー、喫茶コーナーなどを整備。
- 「森のともだち作り」として、普段はほとんど山林に接することのない人を対象に、山林に親しむための様々な活動を展開。楽しみながら森林に触れ合うことで、実感として森林の果たす役割・環境への影響を体験することを目的として実施。里山づくりである、どんぐりの森づくり、森のベンチづくりなどを実施

【今後の高岡市並びに福岡町地域のまちづくり】

- 自然歩道などを体験するツーリズム的なものを行い、若者に福岡地域特有の自然を体験してもらう。
- 木粉、福岡の材木を活用したまちづくり。

【ヒアリング要旨】 本多支所長に聞く

森林とエコの関係について？

森林は我が国の貴重な環境資源として見直されてきています。二酸化炭素吸収源としての森林整備や、集中豪雨対策としての水源涵養機能への見直しなど、公益性の面から森林の重要性が再認識されています。富山県でも、平成19年度より「水と緑の森づくり税」が導入されるなど、森林の管理保全への関心は非常に強いものとなってきています。森林資源を有効に活用するため、組合では間伐、主伐といった作業を安全で効率的に実施するための作業道の整備、所有者が森林をきちんと保全していただく条件づくりとして、GPSを活用した境界確定事業などに取り組んでいます。こうした地道な取り組みが、森林の荒廃を防止し、森林資源を社会的に有効活用することに繋がっていると思います。作業道の整備等、森林に人間の手を加える場合は、当然のことですが森林環境に配慮しながら行っています。

エコのまちづくりについては？

森林はエコにつながる公共の財産という側面と、所有者の私財という両面があります。所有者にとって山林は貴重な財産であり、これまで所有者の努力によって森林が守られてきた歴史もあります。こうした点から、森林の保全や活用においても、所有者の意思を尊重することが重要です。森林を保全するボランティア活動などが活発になっています。こうした活動は重要だとは考えますが、活動にあたっては、所有者側との意見調整や信頼関係の構築が重要です。また、森林には大きくは天然林と人工林とがあります。特に人工林は、造林を目的として人工的につくられた自然ですから、環境保全において手入れがかかせません。また、天然林も里山のように人が関わることで豊かな森林が保全されてきた歴史もあります。こうした人や森林の関わりをきちんと理解していただき、ボランティアの方々をはじめ、関心がある方々が適切に森林と関わっていただくことが必要です。



高岡支所に展示されている地元木材を使った木工作品



森林組合が経営する体験施設「もりもりハウス」

福岡町土地改良区（水土里ネット福岡町）

〒939-0116 高岡市福岡町下蓑 402 番地 電話番号 0766-64-2127

調査対応担当者 浦田 稔（事務局長）

平成 22 年 9 月 9 日、福岡町土地改良区事務所にて聴取



【略歴等】 平成 10 年設立（旧福岡町庁舎内）

【代表者】 青木 紘（理事長）

【組合員・会員・従業員等】 1,846 名

【事業概要】 農作物を作る基盤である農地や、用排水路改良を行う（赤丸地区、江尻地区など）

【主要商品・サービス等】

【エコ関連事業】

- 土地改良事業を通じた農業環境等の地域環境の保全。
- 環境に配慮した農地や用排水施設の整備や管理。
- 平成 14 年から水土里（みどり）ネットを愛称化。

【社会貢献活動】

- 「フィルムで残す農業用水と暮らし」写真コンテスト
- 小学生の視察研修実施

【エコ活動】

- 事業実施の際には、環境検討委員会の審議を必要とする。
- 農作物を作る基盤である農地や、用水路の中の再整備時など生態系を保存するため、環境検討委員会の許可を得た事業を行い、生態系に配慮した整備を行う。

【今後の高岡市並びに福岡町地域のまちづくり】

- 福岡の特色である西山丘陵、河川、植物、平地（田）などの水と緑を活かしたまちづくりを行う必要がある。

【ヒアリング要旨】 浦田事務局長に聞く

福岡町土地改良区の概要について

平成 22 年度の事業概要についてですが、県営事業では、赤丸地区（一般型）、江尻地区（農業生産法人等育成型）等の整備を行っており、北陸新幹線附帯事業としては、一歩二歩、大滝、開葎地区の関連道水路等の工事、団体営業事業では、亀川（排水路）等の整備、維持管理適正化事業では、矢部地区外 3 箇所の工事及び県単農業農村整備事業では、馬場地区外 2 地区の整備等を行っており、総事業費としては 480 百万円の各種土地改良事業に取り組んでおります。

土地改良区は、その施行する事業地区内の組合員によって組織され、その組合員の組織する総会または、総代会において組合員の意思が決定され、かつ、その運営は組合員の選挙または選任によって選出された役員により、また、組合員自ら負担する経費により組織及び運営を行っております。



福岡町土地改良区の役割は？

農業には、農地や排水施設の整備や管理など、農業に適した環境づくりが必要となります。こうした取り組みを農家が連帯して行うために組織されているのが土地改良区で、土地改良法により、一定の地区内で土地改良事業を行うことを目的として設立される公共組合です。最近では、農地や農業用水は、農業の基盤ということだけではなく、国土や自然環境を保全するための多様な役割を持つ地域資源であるという意識が高まっています。土地改良区が行う事業の多くが、地域の環境保全にも大いに貢献しています。平成 14 年から愛称も“水土里（みどり）ネット”に決まり、地域社会にとってより身近な存在となってきたと思います。

まちづくりにおいて福岡町土地改良区が果たす役割は？

今後の土地改良区では、地域の環境保全の観点から、地域社会と連携した取り組みが重要となってきました。例えば、現在の農業用水路はコンクリートで整備されています。昔は、農家の方々の水路管理は大変な作業でした。自然の水路では、水草などが発生しやすく、これらを取り除く作業などを怠れば農業に支障が出てきます。しかし、水路管理は重労働ですし、時間もかかりました。現在のコンクリートの水路になってからは、こうした作業が安全効率的に行えるようになり、農家の負担も減りました。その一方で、こうしたコンクリートの水路は自然環境にあっていないのではないかという指摘もいただいています。しかし、自然環境に配慮した農業用水路等の整備を行うためには、大きなコストが発生しますので、補助金の大型化などを行う必要があります。このような問題について理解し考えていく必要があります。

福岡地区水田営農実践組合

高岡市福岡町

調査対応担当者 寺林 隆（会長）

平成 22 年 9 月 10 日、寺林会長宅にて聴取



【略歴等】実践組員 60 名ほどで、稗島・下藪・四十万・大野の 4 部落で結成。各生産組合長が部落の取りまとめを行っている。実際の農業従事者は 30 名ほど。

【代表者】寺林 隆（会長）

【組員・会員・従業員等】実践組員 60 名（農業従事者 30 名程）

【活動理念・目的】福岡地区の水田農業改革に必要な事項について協議。①地域水田農業ビジョンの実践、②生産目標数量の配分、③水田農業構造改革交付金の使途

【エコ関連事業】

- 籾殻、わらの堆肥化や利活用。
- トレーサビリティの導入による、安心・安全な食の提供。農協の営農指導、情報提供、指針等に基づき、地域の農家での導入は徹底している状況。
- 安心・安全に加え、食味等の消費者ニーズに配慮した農産物づくり。福岡の水や自然環境を活かした美味しい農産物づくり。
- 農産物加工品は、自家消費用として味噌、漬物等を各農家で作っているが、販売用の商品づくり、商品開発等は特に取り組んでいない。

【社会貢献活動】

- JA いなばカントリーエレベーターから出る籾殻を堆肥に加工した物を希望者は田んぼにまいて土づくりに利用している。堆肥は有償。

【エコ活動】

- 地域農家と町会が連携した河川清掃（岸度川・荒又川）、農業用水路の管理・清掃等。
- 農業・有機肥料の土作り

【今後の高岡市並びに福岡町地域のまちづくり】

- 地域の伝統行事の継承。
- 地域文化・伝統の後継者育成（菅笠、地域行事等）。
- 蓑川プロムナードの早期完了。また、高齢者・子ども等に配慮した設計づくり。

【ヒアリング要旨】 寺林会長に聞く

農業とエコの関係は？

資源の有効活用やリサイクルの点からみると、農業そのものがエコだといえます。例えば米づくりをみると、わらや籾殻は廃棄しないで現在でもほとんどが再利用されています。しかし、日本の農業の形は戦後大きく変わりました。土地改良や水路が整備されていないときは、自然を相手に各農家とも本当に苦労しました。昔は、水田に必要な水の確保をめぐって地区でいざこざがあったほどです。そうした意味で、農家は自然や環境の大切さを強く認識していると思います。戦後は農業用水のための水路が整備され、また土地改良事業で田畑の地質がよくなり、高い収穫が見込める農環境が整いましたが、水路はコンクリートで整備されていますから、田んぼや水路に昔みられた魚や昆虫などは姿をみせなくなりました。しかし、最近ではトンボが戻ってくるなど、環境の取り組みを進めることで自然が再生されることも実感としてわかっています。ですが、ドジョウやメダカなどがたくさんいた、かつての福岡の田園を再生することはなかなか難しいと思います。



エコのまちづくりについては？

福岡でも米の収穫月が早くなるなど、温暖化の影響がでてきていると思います。私の地区の自治会でも年1回、荒又川の清掃などを行っていますが、農業を支える点からも環境への取り組みはとても大切だと思います。また、食の安全面では、使用農薬を少なくし、生産過程を明らかにするトレーサビリティの取り組みも標準的になってきており、組合農家でも熱心に取り組んでいます。消費面からみると、消費者が求める食味などのニーズにあわせて、米の選別が以前よりも厳しくなっています。“いりご”とよばれる未熟米の選別の基準は、粒の大きさの違い、色の違いなどで行っていますが、以前は出荷して食用となっていたものも、消費者の味覚に合わせて厳しく選別されるようになりました。生産しても使われない米があるということで、豊かな生活を支える農業と自然の関係など、福岡の農業の実態を知ってもらおうことが、エコのまちづくりの取り組みにおいても重要だと思います。寺子屋方式で子どもや観光客などの体験農業を受け入れることが可能な農家は少なくないと思います。

今後の福岡町のまちづくりについては？

農家などでは、田祭、地藏祭、秋祭など伝統的な行事が今でもきちんと継承されています。少子高齢化、後継者不足などが叫ばれる時代ですが、福岡の農家では後継者が育っている地区もあり、私の地区でも、あと数十年ぐらいは、農業も地域の行事も次代に継承できると考えています。農産物を使った加工品などの特産品づくりは重要だと思いますが、各農家とも自家用の味噌や漬物は作っていますが、販売できるような商品開発の取り組みはまだ不十分だと思います。特産品といえば、かつては農家のどこでも副業として菅田を作ったり、菅笠編みを家族総出でやっていました。我が家でも昔はやっていましたが、今はやっていません。近所でも菅田は1軒だけが取り組んでいるだけです。私の母が作ったヘルメット型の菅笠を大切に保存していますが、こうした地域の伝統工芸・技能や文化は消えつつあります。農家でも需要がないなかで菅田づくりは困難ですし、また、菅笠づくりを知っている農家の人も少なくなりました。何らかの対応が必要ではないでしょうか。また、計画されている蓑川プロムナードは、地域の活性化のためにも早期の完成を期待しています。その際に、お年寄りから子どもまで誰もが使いやすい環境の整備を望みます。

株式会社 成田養魚園

〒939-0125 高岡市福岡町矢部 1050 電話番号 0766-64-3196

調査対応担当者 成田 戦一（代表取締役）

平成 22 年 9 月 10 日、本社事務所にて聴取



【略歴等】 明治創業、専門化は大正以降

【代表者】 成田 戦一（代表取締役）

【職 員】 6 名

【事業概要】 約 70,000m²の養殖池で錦鯉、食用鯉（黒鯉）を中心とする淡水魚、年間約 500 万尾を養殖販売

【主要商品・サービス等】 錦鯉、食用鯉加工品（アライ、新巻、健康飲料等）販売

【エコ関連事業】

- 錦鯉販売（紅白、大正三色、昭和三色の錦鯉御三家の他、浅黄、茶鯉等を生産）
- 飼育資材の販売、池の設計施工
- 食用鯉の加工販売（活魚、アライ、新巻、甘煮、健康飲料“鯉胆”）アライについては、地元スーパーマーケット「アルビスタピス店」等へ出荷
- 鯉の里公園の指定管理

【社会貢献活動】

- 鯉の里公園施設に対する養鯉関連の展示資料の提供
- 学校等の社会科見学の受け入れ

【エコ活動】

- 戦前は、河川等から天然の水を養鯉に活用。現在は農業用水を使用しないため、地下水をポンプ汲み上げて利用。
- 冬場は鯉は冬眠時期になるが、年間を通じた養鯉のために水温管理を徹底。
- 上記のように、現在の養鯉は、養殖に適した環境を人工的に構築して実施しているため、エコの考え方と乖離している点もあり。
- 省エネ等の取り組みは、企業としてのメリットもあるので、今後検討が必要。

【今後の高岡市並びに福岡町地域のまちづくり】

- 地域資源である鯉の活用。
- 鯉のもつ愛らしさ、美しさを活用した地域イメージや地域ブランドの形成。
- 新たな食用鯉のレシピづくり。（養鯉業者だけでは開発は限界）
- 駅前地区などに錦鯉の鑑賞ポイント（池、水路）を設置し放流。錦鯉の美しさを堪能するためには、ある程度至近距離から鑑賞できるような配慮が必要。また、真鯉と異なり錦鯉は生育環境の管理が重要となるため、水質管理や給餌等の管理運営体制の確保も重要。

【ヒアリング要旨】 成田社長に聞く

福岡町地域の養鯉産業の特色は？

福岡の川東地区は水資源に恵まれ、農家の兼業の一つとして養鯉が明治時代から営まれ、その間に関係者が品種改良や養鯉技術の向上などを行って来ました。長い歴史と先人の英知によって築かれた北陸地方を代表する伝統産業といえます。養鯉は大きくは鑑賞用と食用がありますが、現在は両方の需要に伸び悩みがみられます。経済的低迷が長引くなかで、今後の需要の伸びは不透明です。地域の伝統産業を守る観点から、地域での鯉の消費や活用を真剣に考える必要があります。



地域資源である鯉の活用方法は？

食用鯉では、当社では地元スーパーに鯉のアライを卸しています。最近では、鯉の胆汁を素材とした栄養ドリンク「鯉胆」を販売して好評を得ています。地産地消面では、学校給食の食材としても活用いただいています。元々、真鯉は農家などでは貴重なタンパク源でした。しかし、食生活が多様化し、豊かになった今日、食用鯉の需要はかつてほどありません。今以上に需要を伸ばすためには、鯉料理の新メニューを考えるなど、新しい地域での取り組みが不可欠です。これには弊社だけでは対応できません。錦鯉など鑑賞用としての福岡鯉は、愛好家にとってブランド鯉として確立しています。愛好家の方は今でも当社までお車でいらっしやり、直接、錦鯉を買って行かれます。しかし、お庭に池をつくって錦鯉を買われる世帯は減少してきていると思います。また、長引く経済不況のなかで、ホテル・旅館など企業からの需要も減ってきているのが現状です。今後は、こうした福岡鯉を持つブランド力や魅力を活用することも重要だと思います。毎年、課外授業で小学生などが見学にたくさんお出でになります。鯉を見ると大きな関心・好奇心を示します。鯉の美しさや愛らしさが人を惹きつける魅力をもっているからだと思います。こうした鯉の魅力を活用した地域のイメージづくりや関連商品の販売などを行っていけば、地域固有のブランド、魅力として福岡鯉を愛好家以外の方々にも広めていけるのではないのでしょうか。また、まちづくりのなかで水路に錦鯉を放流している観光地があります。駅前などの池や水路に観光客の観賞用の錦鯉を放流することも可能だと思います。ただし、天然の真鯉は環境の適応力が高いのですが、錦鯉は品種改良を続けた結果、適切な水質管理を行わないと生育できないものもあります。錦鯉の生育環境を管理する視点も重要です。

エコの取り組みについては？

養鯉業と養蚕業は密接な関係があります。明治、大正時代は、養蚕業から排出された蚕を鯉の餌として利用していました。今でいうリサイクルです。また、福岡町地域の養鯉は、自然環境の恵みによって繁栄してきた産業だといえます。戦前の養鯉は、農家が自然の水路から天然の水を田んぼや養殖池にひき、自然のなかで鯉を育てていました。しかし、土地改良などによって農業が近代化され、農業と養鯉業が分離し、市内の養鯉業者は専門化しています。専門化によって養鯉の方法も大きく変わりました。現在は、地下水をポンプで汲み上げ、年間を通じた水温調整を行って、生育に最適な環境のなかで鯉を育てています。こうした養鯉の方法はエネルギーを使いますし、必ずしもエコとはいえないのかもしれませんが、今後は、養鯉業でもエコの取り組みが必要だと考えています。一般の人からは、環境と調和した産業にみえる養鯉業も、環境面ではこうした現状を抱えています。福岡鯉を通じて、日本の産業や福岡のまちづくりの歴史を知り、今後のまちづくりや環境問題を考えることはとても有益ではないのでしょうか。



水温管理によって鯉が生産されている屋内養殖池



鯉エキスを使った健康飲料「鯉胆」

ウ 事業所

株式会社マスオカ 本社・工場
〒939-0142 高岡市福岡町土屋 705 電話番号 0766-64-5667
調査対応担当者 盛田 光一（管理部管理課課長代理）
平成 22 年 9 月 9 日、本社会議室にて聴取



【略歴等】 昭和 34 年創業、平成元年福岡町に本社・工場を移転	【代表者】 増岡一郎（代表取締役社長）
【資本金】 3,000 万円	【従業員数】 170 人
【事業概要】 各種金型設計・製作、各種専用機械設計・製作、アルミ形材製品製造、エクステリア製品販売	
【主要商品・サービス】 アルミ形材加工金型、アルミ形材押出金型、自発光タイル等	

【エコ関連事業】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自発光タイル「クリペ」を委託販売。LED 面発光体が昼間に太陽光を蓄電し、夜間に赤色、白色、青色、緑色のほのかな発光。景観、防犯・防災用のエクステリアとして、公共施設、家庭用エクステリアとして利用。 ○ 電気二重層コンデンサを採用した太陽電池方式で電源は不要。電気代 0 円で半永久使用が可能。 ○ 現在、福岡駅前に設置済み。

【社会貢献活動】
<ul style="list-style-type: none"> ○ つくりもんまつりに職員 2 名を参加、及び寄付

【エコ活動】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 3 年に「クリーンフィールド委員会」を設置、毎月 20 日、職員が使用したアルミ缶、ペットボトルキャップをリサイクルとして回収。アルミ缶は年間約 3,000 缶を回収。 ○ 一般的な省エネ等の取り組みは実施。独自のエコ目標等については、企業が単独で行うよりも行政や工場会などからの指針や情報提供があれば積極的な取り組みが展開可能。 ○ LED や省エネタイプの空調システム等のエコ製品の導入については本格的に実施した場合、初期投資が億単位となるため、現在の設備等が老朽化するまでは取り替えの見通しがたたない。助成制度や具体的な経済的メリットの理解など、何らかのインセンティブが必要。

【今後の高岡市並びに福岡町地域のまちづくり】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 社員の多くが福岡町地域以外からの通勤者であり、社員独自のまちづくりへの関心や興味は限定されている。

【ヒアリング要旨】 管理課 盛田さんに聞く

取り扱うエコ商品は？

当社の事業は各種金型設計・製作が中心となっていますが、委託販売の商品として自発光タイルを取り扱っています。昼間に太陽光を蓄電し、夜間にほのかに発光するタイルで、LEDの技術が活用されています。防犯・防災用として、また、家庭用のエクステリアとして、公共施設だけではなくご家庭でもご利用いただいています。福岡では、JR福岡駅に利用されています。今後の事業面においても、エコに関係したサービスや商品は重要となってきますから、当社でもこうしたニーズには対応していくことになると思います。



エコの取り組みは？

社長の発案で、社員が使用したアルミ缶を回収するリサイクル活動に取り組むため、「クリーンフィールド委員会」を設置して、会社をあげた取り組みを実施しています。年間に約3,000のアルミ缶が回収されます。また、ペットボトルのキャップの回収も始めました。その他にも、工場の屋根にも遮熱シートを設置し、工場内の温度管理に一定の効果をえています。今後も環境に配慮した事業所づくりを進めていきたいと考えていますが、エコの取り組みには、たくさんの知識や情報が必要になります。行政や工場会などから有益な情報提供があれば、市内のさまざまな事業所でもエコの取り組みが活発化するのではないのでしょうか。

自発光タイル「クリペ」 kuripe 世界特許取得商品

ほのかな光を発光する蓄電・防災に使用できるLED発光体です。
省エネ・メンテナンスフリーで昼・夜間アプローチの誘導灯や階段灯などに幅広く使えます。

- 【経済的】 Economical**
 - 電気代0円
 - 蓄電装置には酸化ニッケルコンデンサを採用した太陽電池方式です。
 - 2000mAh蓄電、駆動8ヶ月です。
- 【環境にやさしい】 Ecology**
 - 電気ニッケルコンデンサは、無鉛鉛フリー（鉛フリー）であるため、有害な重金属の含有が少なく、環境にクリーンなエネルギー源です。
- 【高性能】 High performance**
 - 積層型LED発光体で自動点灯・消灯の自動点灯
 - 照射角度が広く照らす範囲が広いので、一定の光量を確保。
 - 発光体は発光面から目でも見えない設計です。
 - 様々な色やサイズのタイプも可能です。
- 【低温度環境に強い】 Low-temperature environment**
 - 使用温度範囲が-50℃～70℃と広く、寒冷地での使用も可能です。
- 【メンテナンスフリー】 Maintenance free**
 - 発光体は電圧でも劣化が少ない酸化ニッケルコンデンサであるため、分解・修理の必要がなく、メンテナンスが不要です。

夜間の誘導灯や階段の境界灯として
足下をほのかな光で照らし、安心です。また、壁面等に利用して外観をオシャレに彩ります。

日中 (誘導灯)
夜 (高灯)

自発光タイル「クリペ」

富士コン株式会社

〒939-0117 高岡市福岡町福岡新 220 電話番号 0766-64-3111

調査対応担当者 酒井 志行（本社統括取締役）

平成 22 年 9 月 10 日、本社事務所にて聴取



【略歴等】昭和 36 年創立

【代表者】酒井 道行（代表取締役社長）

【資本金】7,500 万円

【従業員数】63 名（工場は約 30 名）

【事業概要】窯業 コンクリート二次製品の製造・販売・施工

【主要商品・サービス】パイル、ヒューム管、プレホール、環境・省力化製品

【エコ関連事業】

- コンクリート自体が廃棄物（セメント製鋼の原料や熱エネルギー源）をリサイクルして造ったものなので、循環型のエコな商品

【社会貢献活動】

- コンクリートの製品自体が人々の生活を守るための製品
- 募金の取り組み
- 側溝の掃除

【エコ活動】

- 温度と湿度を考えたエアコンの設定
- 鉄くずを分別してリサイクルしている

【今後の高岡市並びに福岡町地域のまちづくり】

- 学校教育の差別化
- 若い人を考えたまちづくりとお年寄りのことを考えたまちづくり

【ヒアリング要旨】 酒井取締役に関く

コンクリート事業について

コンクリート自体が廃棄物をリサイクルして造ったものなので、エコな商品と言えるのではないかと思います。ごみの処理問題と絡んで、再利用することで、循環的な商品となります。フライアッシュを入れた二次製品もあります。また、取り扱っている製品で、残存型枠というものがあります。通常は、木枠で型を組んで、その中に、生コンをいれて木枠をとるという作業が発生します。木枠は永遠にもつものではない。この製品は、コンクリートでパネル状のものをつくり、パネルを組み立て、生コンを打設し終了します。そのため、建設資材・廃材がでないものとなっております。この取り組みは、全国的に行われていますが、北陸地域については、弊社で取り扱っております。



今後の新しい取り組みとして（エコ関連材料等について）

コンクリート二次製品の会社ですので、コンクリートに関連する情報を集めたりします。パネルに緑が付きやすくなるような商品もあります。河川沿いについては、コンクリートがむき出しではなくて、自然の藻のようなものがでて、前の工事の段階と同じような環境をつくるものがあります。そうすることによって、自然環境を維持することができます。日本の河川は、従来の治水・利水を中心としたものから、環境と調和させ、生態系や景観に配慮した多自然型河川づくりへと進化してきています。その中で、河川の自然特性をできるだけ活用した環境に配慮したブロックが望まれます。従来のコンクリートブロックとは違い、胴込コンクリートの代わりに、現地土を流したり、発生材等を中詰め材として使用することもできます。そのため、現地で生息している、昆虫・植物・微生物の生態系を損ねることがありません。

エコのまちづくりに対する社会的取り組みについて

大きい意味で言うと、コンクリートの製品自体が国民の安心・安全の生活を実現するための製品ですので、砂防ダムにしても、人々の生活を守るために使命感をもって行っております。募金関係の取り組みも社会貢献の一つとしておこなっております。側溝の掃除についても、町内会を通じて行っております。つくりもんまつり等のイベントへの寄付金や人を出したりもしております。

事業所で取り組んでいるエコ活動について

エアコンの設定については、28度にし、温度計と湿度計をみながら、温度だけでなく湿度にも基準を設けております。弊社では、提案活動として、社員が年間12個の提案をすることにしており、その提案の一つとして採用されたものです。リサイクルに関しては、ダンボールを出しています。鉄くずについては、3種類（上級鉄・中級鉄・下級鉄）に分別してリサイクルに出しています。社用車については、ゆくゆくはエコカーを導入したいと考えております。

今後の福岡町のまちづくりについて

まちの元気がなくなっていると感じます。高齢化や少子化が原因だと感じます。何か人が定着するようなきっかけがあればよいと思います。



残存化粧型枠



環境保全型ブロック



コンクリートパイプ

三協化成株式会社 本社・工場

〒939-0143 高岡市福岡町下向田 3-1 電話番号 0766-64-4000

調査対応担当者 松原 静治（常務取締役）
和泉 光宏（管理部総務課課長代理）

平成 22 年 9 月 10 日、本社会議室にて聴取



【略歴等】昭和 50 年設立。平成元年、福岡町地域に本社工場を移転

【代表者】一島 正明（代表取締役社長）

【資本金】1 億円

【従業員数】約 100 名

【事業概要】建築用各種ガスケット・硬軟異形押出成形品、射出成形品・ゴム押出成形品、研究開発業務

【主要商品・サービス】住宅・ビルサッシ用グレージングガスケット、室内木質ドア用モール材等

【エコ関連事業】

- 三協立山アルミが開発した後付樹脂内窓「プラメイク E」の枠及び障子材（硬質押出成形品）を製作・販売。
- 「プラメイク E」を既存の住宅窓等に設置することにより、断熱、防音、防犯防災といった住宅性能を高めることが可能。特に省エネ効果については、約 2 割の光熱費の節約が可能

【社会貢献活動】

- 工場敷地内に法定緑地とは別に芝生化をした緑地を整備。緑地を運動広場として地元少年野球チームに無償開放
- つくりもんまつり等の地元イベントを協賛

【エコ活動】

- 平成 16 年に ISO14001（国際標準化機構が発行した環境マネジメントシステムに関する国際規格）を取得。
- 三協立山アルミ(株)をはじめとするグループ企業で、環境配慮設計指針を策定。4つのコンセプト（省エネ、省資源、資源有効活用、環境保全）に基づき商品開発を推進
- 立地場所、三交代制シフトのため、職員のマイカー通勤が一般的。通勤手段のマイカーから公共交通への転換については、現状としては課題が多く、実施は困難。

【今後の高岡市並びに福岡町地域のまちづくり】

- 「プラメイク E」など、環境性能に優れた商品の導入を地域で推進することにより、地域全体のエコを推進することが可能
- 環境教育等を目的とした工場見学等の受け入れは可能。ただし、環境商品の生産工程の一部であるため、関連企業との連携した受け入れ等により効果的な環境教育としての工場見学が可能。